

62 高次脳機能障害者のリワーク（復職）に向けて ―支援事業所調査―

管理部医事管理課医療相談室 飯塚真理, 茅根孝雄, 金子淑子, 下重敏子

【はじめに】 これまで、リワーク（復職）支援は主にうつ病の患者さまを対象としている事業所が多数であった。当院入院・外来通院中の患者さまの内「高次脳機能障害者」はうつ病と同じ「精神障害者保健福祉手帳」の対象だが「うつ病の」と明記されているリワーク支援事業所は利用が出来ないことがある。そのため、高次脳機能障害者が利用可能な復職支援事業を行っている埼玉県及び東京都の施設・医療機関等事業所の確認及び支援プログラム内容の把握をし、患者さまの復職支援に活用することを目的として、サービス利用の実態を調査し、現状と課題を明らかにすることとした。

【方法】 埼玉県及び東京都の障害者職業センター3ヶ所、障害者就業・生活支援センター15ヶ所、区市町村就労支援センター90ヶ所、東京ジョブコーチ職場定着支援事業1ヶ所、うつ病リワーク研究会登録医療機関21ヶ所計130ヶ所に電話連絡後、FAXもしくはE-mailでアンケート調査を実施。返答いただいた53ヶ所の集計を行った。

【結果】 埼玉県・東京都障害者職業センターでは高次脳機能障害者の方々の支援は可能であり、リワークプログラムも実施している。障害者就業・生活支援センター及び区市町村就労支援センターでは、高次脳機能障害者の方々の支援は可能という事業所と応相談という事業所が半々であった。うつ病リワーク研究会登録医療機関では、受入困難という機関が過半数であった。

【問題点と今後の課題】 高次脳機能障害者の受入時に病院MSWに望むことを記載してもらい、その中で多数要望があったのが、本人に関する事前の情報提供である。当院で他機関に情報提供を行う際、医師・リハビリ部門の評価結果等書類については直接送付することとしているが、医療ソーシャルワーカー（以下、MSW）が本人に関する情報提供を行う場合は内容を本人に開示し、本人の承諾を得て行うようにしている。事前に本人なしでMSWと面談し情報を得たいという機関があったが、MSWとしては、本人なしでの支援ではなく、始めから本人と共に行っていききたい。

次いで要望があったのが、病院との継続した連携、相談時に支援者の同行などであった。病院との継続した連携に関しては、主治医及び病院内スタッフと連携しながら行っていく必要がある。相談時の同行については、病院MSWとして希望に副えない場合がある。その際は当院に来院いただくなど他の手段を相談しながら、患者さまに不利益にならないよう、関係機関と連携して支援していききたい。